

前復興まちづくり計画策定推進に向けたあり方勉強会

事例紹介

2025年6月5日

田辺市 総務部 危機管理局 茨 善行



- 1 事前復興計画の策定経緯
- 2 計画検討体制等
- 3 事前復興計画の特徴等
- 4 事前復興計画策定後の課題
- 5 計画策定に係る和歌山県からの支援等

1 事前復興計画の策定経緯

- 平成23年3月 **【東日本大震災】**
- 平成23年9月 **【紀伊半島大水害】※台風12号**
- 平成27年6月 田辺スポーツパーク完成(県広域防災拠点)
- 平成28年3月 新消防庁舎完成(高台移転)
- 平成30年2月 **和歌山県復興計画事前策定の手引き公表**
- 令和2年4月 **大規模災害復旧・復興検討委員会**
- 令和6年3月 市役所新庁舎完成(高台移転)

市の防災拠点施設がすべて高台に移転した。

本市の課題（防災業務）

- 和歌山県は、平成26年10月に「津波から『逃げ切る！』支援対策プログラム」を公表した。
- 対策の一つとして、「津波避難困難地域（田辺市5か所）」が抽出され、対象地区でのハード・ソフト両面での地震・津波避難対策を行う必要があった。

※津波避難対策（68町内会が対象）

ハード：津波避難タワーの建設、津波避難路の整備、津波避難ビルの指定など

ソフト：津波浸水想定地域の避難計画の作成（ワークショップ）

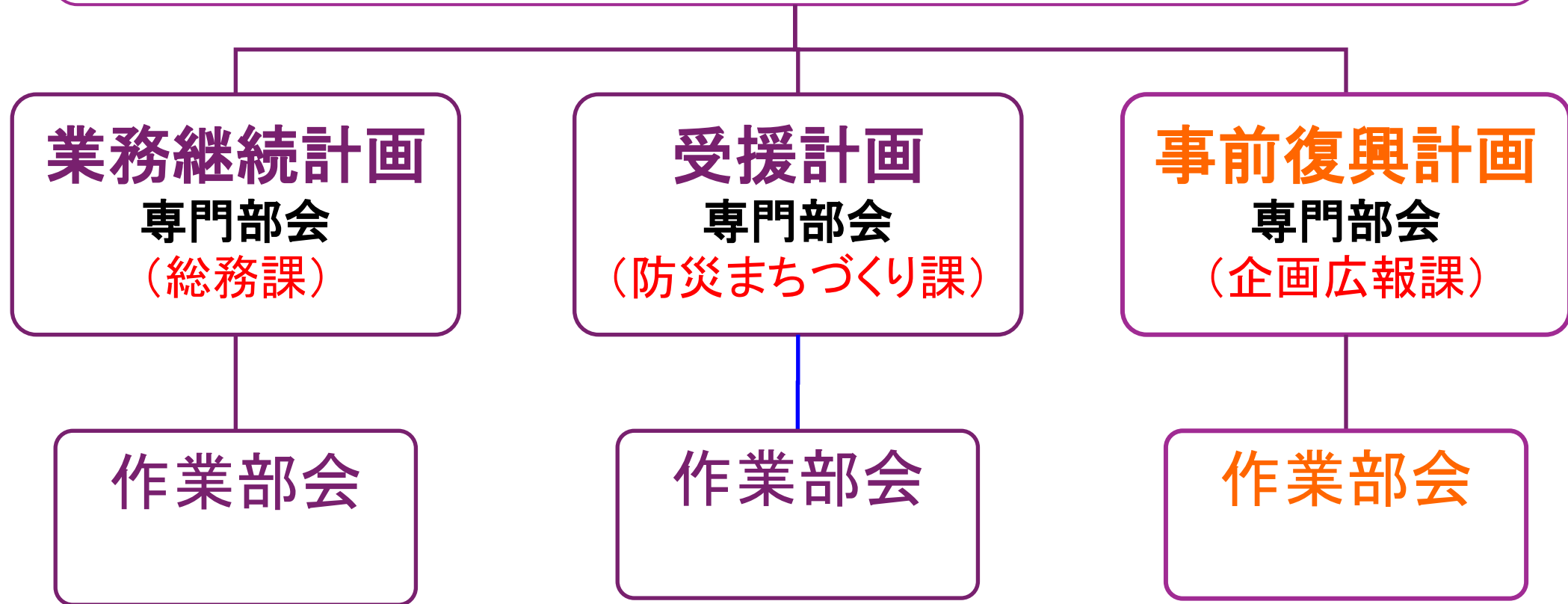
事前復興まちづくり計画の必要性

- 平成30年 2 月、和歌山県「復興計画事前策定の手引き」の公表
～県下市町村との意見交換が行われた～
- 津波から『逃げ切る！』ことへの取組と同じく、万一被災した場合の事前復興まちづくり計画の必要性は認識していた。
- どの部署が主となり取り組むのか・・・
防災まちづくり課、企画広報課、都市計画課の 3 課で協議
- 職員の意識改革が必要
事前復興の取組等に係る学習会の実施
特別職、全部局等の長、関係課室等の長及び係長等職員が出席

災害前に**災害対応～復旧復興**
までを含めて検討をしておく
ことが不可欠！

2 計画検討体制

大規模災害復旧・復興検討委員会(R2.4設置)



※ 3 計画の策定にあたり、全部署が協力し、全庁的な体制で取り組む。

計画の想定災害

第3章 和歌山県における復興計画事前策定

第1節 復興まちづくりの基本的な考え方

1 地震・津波災害の想定

最も大きな被害が見込まれる南海トラフ巨大地震・津波の被害想定を基本に、復興まちづくりを検討する。

- 地震規模 Mw 9.1
- 最大震度 7

＜基本とする想定＞

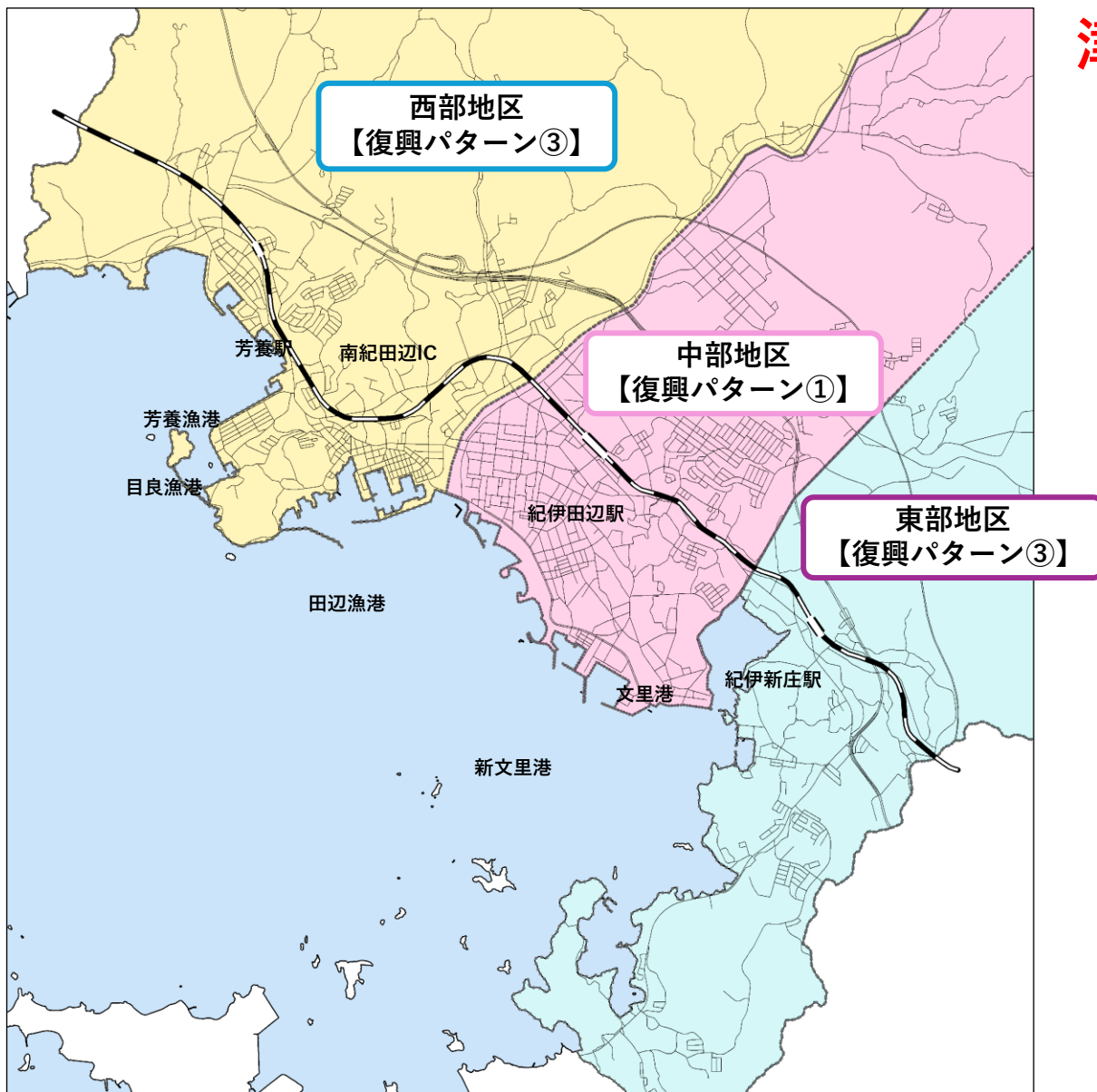
南海トラフ巨大地震の津波浸水想定（和歌山県 平成25年3月公表）

南海トラフ巨大地震の地震被害想定（和歌山県 平成26年10月公表）

3 事前復興計画の特徴

(まちづくりのイメージ)

津波浸水想定区域を3区分して検討した。



田辺市事前復興計画 対象地区

西部地区

◎芳養漁港、目良漁港、田辺漁港といった**漁港が存在**し、天神崎などの豊かな自然的環境を有する

中部地区

◎JR紀伊田辺駅を中心に左会津川左岸の商業地と住宅地のエリアで構成
◎熊野古道、闘雞神社など、多くの**歴史文化資源**を有する

東部地区

◎JR紀伊新庄駅を中心に新庄町で構成
◎文里湾周辺では、古くから**製材業**で栄えるとともに、近年では新興住宅地が整備され、医療・福祉施設、教育環境など、**多様な機能**を有する

地域資源の継承

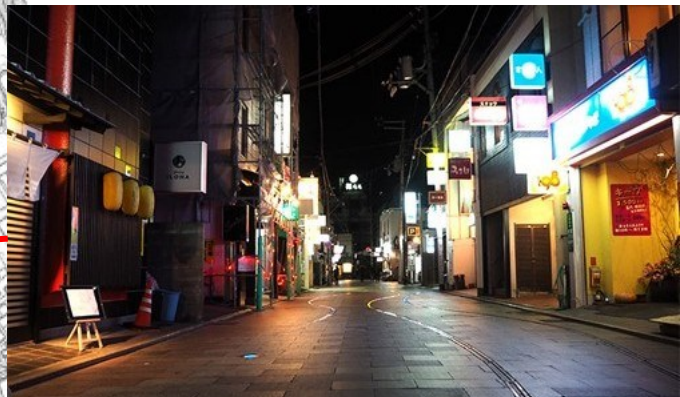
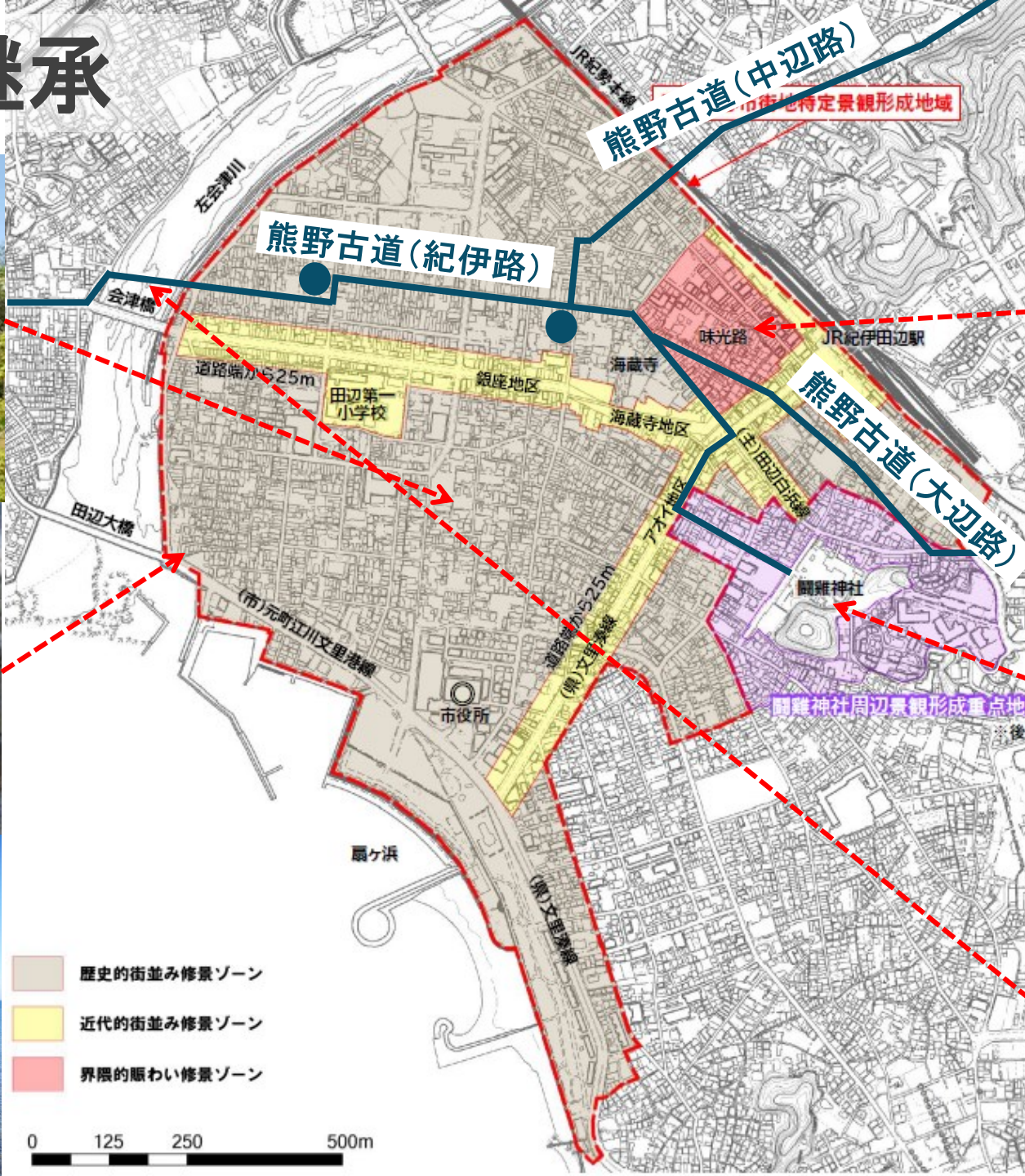


博物学者・南方熊楠邸



田辺城水門

ナショナルトラスト運動の先駆け・
天神崎



紀南最大の飲食街・味光路



世界遺産・闘鶏神社



田辺祭(旧会津橋曳き揃え)

計画 第4章 事前復興まちづくり計画

地区別復興まちづくり計画

- ・土地利用の考え方

- ⇒各地区の応急仮設住宅の具体的候補地を検討した。

- ・想定復興事業費を計画内に示した。

- ・想定復興工程表(スケジュール)を計画内に示した。

4 事前復興計画策定後の課題

- ・ 地域資源（産業）の磨き上げ
- ・ 広域連携の推進
- ・ 平時からの地域活動の支援
- ・ 立地適正化計画等（策定予定）との整合

5 計画策定に係る和歌山県からの支援

- 復興計画事前策定の手引きの活用（平成30年2月公表）
- 計画策定のための支援本部を県が設置
津波被害が想定される沿岸19市町に対して、県危機管理局内の3課がそれぞれに、担当（6～7市町）を決めて、支援体制を整えた。
- 計画策定のための補助金支援（わかやまパワーアップ補助金）
- 本市の「**専門家会議**」への県職員の参画

専門家会議の設置（R2年度～）

【計画策定時のポイントの一つ】

多角的に議論する場として設置

- 職員の知識等の不足を専門家に補ってもらう！
- 京都大学 防災研究所
- 和歌山大学 システム工学部
- 和歌山信愛大学 教育学部
- (株)ドーコン 都市・地域事業本部 総合計画部(東北の復興に関わったコンサル)
- 和歌山県 総務部 危機管理局 防災企画課
- 和歌山県 県土整備部 都市住宅局 都市政策課

R 5 年度 事前復興計画完成

	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
市役所新庁舎整備	実施設計	店舗解体	庁舎建築		
業務継続計画					
受援計画					
事前復興計画		若手職員 ワークショップ	市民の検討 会議	住民説明会 パブコメ	
			専門家会議		
田辺市総合計画		後期基本計画策定			

A person in a yellow and black outfit is performing a yoga pose on a wet, reflective beach at low tide. The person's reflection is clearly visible in the shallow water. The sky is a vibrant blue with scattered white clouds. In the background, a dark shoreline with some distant buildings and hills is visible.

ご清聴ありがとうございました。

田辺のウユ二塩湖「天神崎」

ナショナルトラスト運動発祥の地